出雲地区
# 保護司会だより
第32号

## 出雲市における再犯防止の取組に御理解御協力を

松江保護観察所長　穂坂英樹

出雲市民の皆様におかれては、平素、法務省が主唱する「社会を明るくする運動」を始め、地域の保護司、更生保護女性会員、協力雇用主、BBS会員の方々が参画した犯罪や非行のない明るい社会づくりのための様々な活動に御協力や御支援を賜り、心から御礼申し上げます。

最近の全国あるいは島根県における刑法犯の認知件数は、年々減少傾向にある一方、刑法犯により検挙された者のうち、再犯者の割合が、この二十年以上にわたり上昇し、平成二十九年には四十八パーセント余となっており、罪を重ねる人たちの中には、貧困、様々な障害、厳しい生育環境等で様々な生きづらさがあり、立ち直りに多くの困難を抱える人たちがいることがわかってきました。

このような生きづらさを抱える人々に対して、刑事司法機関のみならず地域社会で息の長い支援をしていくことが国全体の重要な課題とされ、平成二十四年に「再犯防止に向けた総合対策」を策定したのを始め、平成二十八年十二月に、再犯の防止等に関する施策に関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明示するとともに、再犯の防止等に関する施策の基本となる事項を定めたいわゆる「再犯防止推進法」を策定、翌二十九年十二月には、「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、国・地方公共団体・民間の緊密な連携協力を確保して再犯防止施策を総合的に推進すること等の5つの基本方針と罪を犯した人々への就労・住居の確保等の7つの重点課題・施策を盛り込んだ国における「再犯防止推進計画」を策定し、鋭意取り組んでいるところです。

また、総務省が発表した人口動態調査によりますと、本年一月一日現在の国の人口は、前年の出生数が最小であったこと、人口に占める六十五歳以上の割合が二十八パーセントを超えていること等により前年から過去最大の四十三万三千人余減少し、今後もこの人口減少と少子高齢化傾向が続くと分析されています。

このような状況下、出雲市においては、積極的に企業立地を進めるとともに、「出雲市多文化共生推進プラン」を掲げ、平成二十八年度からの五か年で外国人にも暮らしやすい地域づくりに努め、市に五年以上居住する外国人の比率を三十パーセント台とする県内初の取組が行われており、これらの先駆的な施策により、産業の発展と人口増加に大きな効果をあげておられます。

今後、出雲市における更なる産業の発展と人口増加の礎となるのは、市民の皆様がより一層の安全安心を感じていただくことが必要との観点から、地域の更生保護関係者等からの協力や支援を得て、特色ある再犯防止推進計画を策定していただくよう心よりお願い申し上げます。

令和元年度

# 「社会を明るくする運動」

## 標語及び作文入選作品の紹介

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を募集したところ、一般から129点の応募がありました。

また、島根県「社会を明るくする運動」推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から104点、中学生から35点の応募がありました。

当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり決定しました。たくさんの応募をありがとうございました。

### 最優秀賞

やめようと
言える勇気が　思いやり
大社町　前島　一美

### 優秀賞

それはダメ
君の勇気が　友すくう
大社町　林　宏

声がけで
ひとりぼっちを　なくす街
天神町　花田　敦子

誉めてやり
そっと見守る　社会の目
荻杼町　柳楽　弘明

立ち直る
決めたあなたに　支援の輪
渡橋町　土江　清美

見逃さない　子どもの態度の
小さな変化
湖陵町　中尾　由美

### 佳作

あいさつと
笑顔で広げる　地域の輪
武志町　築森　寛喜

あいさつは
にっこり笑顔で　大人から
斐川町　児玉　智子

困ったら
抱え込まずに　声かけて
今市町北本町　加儀真理子

挨拶で
笑顔に変わる　地域の輪
湖陵町　春日ノブ子

地域の子
名前を知って　手を振って
多伎町　後藤　英興

思いやる
心がつくる　明るい社会
斐川町　為石　光代

あいさつは
心と心を結ぶ　第一歩
宇那手町　周藤　敏憲

SOS
発信し合って　支え合い
平田町　吾郷加代子

あいさつは、
だれでもできる思いやり
大津町　小林　俊明

あなたの情熱　私の笑顔
みんなで築こう
明るい社会
斐川町　長瀬　恭次

# 「社会を明るくする運動」作文コンテスト優秀作品

小学校の部
更生保護法人島根保護観察協会理事長賞（優秀賞）

## 過ちをおかした人の未来は

出雲市立多伎小学校　六年　水（みず）　雛（ひな）　代（よ）

七月の初めに「社会を明るくする運動」と言ってうちわを配っている大人の人たちを見かけました。社会を明るくするってどんなことだろうと思って、家に帰ってから家族で話しあいました。

すると「明るくない社会ってどんなものか考えてみたら」といわれました。私は、学校で考えてみました。明るくない学校というのは、みんなの仲が悪く、いじめや仲間外れがあって、楽しくない所だと思います。また一部の人は楽しく明るく学校生活を送れていても、その輪に入れない人は、学校にいても自分の居場所がなく、いつもみんなの様子をうかがっていたら、明るいとは言えないと思いました。

「そうだね」とお母さんに言われ世の中でそんなふうに感じている人ってどんな人たちだと思うと聞かれました。私は学校に行けなくなって、そのまま引きこもってしまった人とか、病気やけがで思うように生活できない人とか、差別で苦しんでいる人とか、自分がわかる範囲の事を想像しました。

どれも間違っていないと言われたけど、私が思いつかない存在の人たちの事を教えて貰いました。それは罪を犯して、そこから更生していこうとしている人たちです。

私はテレビで、犯罪を犯した人を警察の人が捜査したり推理して犯人を捕まえたりするドラマをよく見ます。トリックを見破って犯人を突き止めるのを見るのは面白く感じています。でも物語はそこまでで、罪を犯した人がその後にどうなるかなんて考えた事もありませんでした。

罪を犯した人が、罪を償い、心入れ替えて再び社会に出た時、どんなに努力しても、受け入れてくれる世の中でなければ、結局また罪を犯してしまうんだそうです。

明るい社会とは犯罪や非行のない社会かも知れません。でもだからと言って、一度過ちを犯した人は二度と立ち直る機会を与えられないのだとしたら、どんな世の中になるんだろうと思います。

罪を償った人が再び罪を犯してしまう一番の原因は受け入れてくれる所がないからなんだそうです。つまり心を入れ替えて一生懸命仕事しようとしても受け入れ先がなく生活する為のお金を得る事も出来ないし、生きる価値を見失ってしまうんだそうです。

外国では罪を犯して出所した人達を貴重な労働者と考えて、それを支援するプログラムがあるそうです。きちんと刑期の間にプログラムを提供し、職業がきちんとできるようにする取り組みをしている刑務所では再逮捕率が3％以内で成果を挙げていると聞きました。つまり更生しようと願う人を受け入れる仕組みがあれば、人は過ちを繰り返さないということです。

この事を学校で置き換えて考えてみました。いじめや意地悪、仲間外しなどをしていた人が、これはいけない事だと気づいて、これからはこんな事を止めようと思っていても、周囲が、あの人は前に○○さんをいじめていたと受け入れようとしなければ、その人は二度と立ち直れないかもしれません。

犯罪や非行までいかなくても、誰だって思いがけず他人を傷つけたり嫌な思いをさせる事はあると思います。でも、それに気付いてやり直そうとしている人を受け入れ手助けしてあげる事が出来るのが明るい社会だと思います。

私もこれから大人になるまでに色々な出来事に出合うと思います。そんな時にどんな姿が明るい社会なのかを考えて、やり直そうと考える人に寄りそってあげられる人になりたいと思っています。

中学校の部　島根県推進委員会委員長賞（最優秀賞）

# 私にとっての挨拶

出雲市立斐川西中学校　三年　津田愛美

挨拶をするのはいいことだ。挨拶をしてもらうと嬉しいし、挨拶をした自分もいい気持ちになる。挨拶というのは、そういうものだと思っていました。

ある日、下校途中の私は一人のおじさんを見かけました。私はごく自然に、

「こんにちは。」

と挨拶をしました。それは私にとって当たり前のことでした。当然、おじさんも挨拶を返してくれるだろうと思っていました。でも、おじさんは一向に挨拶を返してくれません。知らんぷりのおじさんを腹立たしく感じ、つい、

「何で挨拶を返してくれんの。」

と言ってしまいました。幸いおじさんには聞こえなかったようで、何も言い返してきませんでした。

この日を境に、私はもうあのおじさんには挨拶をしないと決めました。

「せっかくこっちが挨拶をしてあげているのに！挨拶を返さないなんて、最低！」

「挨拶をしてあげているのに。」いつの間にか、私の中での「挨拶」は、自分からすると気持ちの良いものではなく、「してあげているもの」になっていたのです。

そのおじさんの姿は、その後も何回も見かけましたが、私から挨拶をすることはありませんでした。それでも、私の中のもやもやした気持ちはなくなりません。

「いつも下校中に会うおじさんがいるんだけどね、この前、私がせっかく挨拶をしたのに無視したんだよ！大人のくせに、挨拶も返さないなんて最低だよね！」

私は、祖母にそんな風に言いました。誰かに「そうだよね。あなたの言う通り。そのおじさんは最低な人だね。」と共感してほしかったのです。しかし祖母は、こう教えてくれました。

「ああ、その人。私もその人を知っているよ。その人は耳が聞こえないんだよ。」

私は、一瞬頭の中が真っ白になりました。すぐには、祖母が言っていることが理解出来ませんでした。

おじさんは「難聴」だったのです。「難聴」の人は、耳が聞こえないのでうまく話すことができず、手話か筆記しか会話の手段がないことを、その時初めて知りました。私は、おじさんが挨拶を返してくれないことを悔しく思い、その悔しさにずっとこだわっていました。おじさんが抱えている事情が分かり、「してあげた挨拶」にこだわっていた自分がとても愚かに思えました。

次の日、おじさんは畑仕事をしていました。「どうしよう。おじさんは耳が聞こえないし、挨拶なんかしても意味がないかも…。そうだ会釈してみよう。会釈なら言葉はいらない。」そう思い、おじさんの前を通りすぎるとき、思い切って会釈をしました。するとおじさんも気がついてくれ、会釈を返してくれました。

「通じた！」

私は嬉しくて思わず笑顔になっていました。すると、おじさんも笑い返してくれたのです。

言葉なんかなくても、伝えたい気持ちがあれば、分かり合えるんだと感じた瞬間でした。その時した私の会釈は「してあげる挨拶」ではありませんでした。「伝えたい」と思ってした挨拶でした。

挨拶をするのは当たり前。挨拶を返すのも当たり前。でも、私の言う「当たり前」は、すべての人が同じように実行できる「当たり前」ではない。そのことに気づいた出来事でした。

おじさんだけではなく、世の中には、他人が一見しただけでは分からない困難さを抱えている方がたくさんいらっしゃいます。例えば、ペースメーカーを入れている人。妊娠初期の女性。その他、色々な人に、私の「当たり前」は通じないかもしれないのです。

この体験から私は、自分の中の「当たり前」を見直そうと思いました。全ての人に共通する「当たり前」はないのかもしれません。自分の判断だけで決めつけてしまうのではなく相手のことをしっかりと理解したうえで、接していきたいです。

# 出雲地区保護司会の活動等について

出雲地区保護司会は、平成11年、保護司法の改正により、旧出雲地区・旧平田地区・旧斐川地区の3保護司会が統合して発足し、今年で20周年を迎えました。事業や活動は、毎年、5つの部会で分担し実施しています。各部会の担当事項は次のとおりです。

今後とも、関係機関・団体の皆様と連携して、犯罪や非行をした人たちの自立更生と犯罪予防活動の推進を図り、安全・安心のまちづくりに努めてまいりますので、一層のご理解・ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

**総務部会（16名）**

(1)事業計画及び予算・決算、総会の開催等
(2)会員の慶弔及び表彰
(3)保護司候補者の選考や名誉会員の委嘱等
(4)サポートセンターの運営他

**研修部会（16名）**

(1)定例研修会の開催等研修の企画・実施
(2)更生保護事業に関する調査研究等
(3)その他保護司の教養訓練に関する事項

**犯罪予防部会（16名）**

(1)社会を明るくする運動の企画・実施
(2)その他関係機関・団体との連携による犯罪予防の推進

**協力組織部会（16名）**

(1)BBS会・更生保護女性会・協力事業主会との連携の促進
(2)その他更生保護団体との連携、支援

**広報部会（16名）**

(1)保護司会だよりの編集・発行
(2)犯罪予防及び更生保護思想の広報等

※各部会は、必要に応じて随時開催しています。

## 令和元年度の主な行事

4月　監査会
5月　定期総会、第1期地域別定例研修会、保護司会統合20周年記念祝賀会
6月　「保護司会だより」第31号発行、第1回新任保護司地区研修会、第1回サポートセンター運営委員会、名誉会員懇談会、視察研修（網走刑務所）
7月　「社会を明るくする運動」全国強調月間運動（メッセージ伝達・啓発講演会、街頭啓発、作文や標語の募集、ミニ集会の開催等）
8月　第1回地区保護司候補者検討協議会
9月　第2期地域別定例研修会、第1回理事会（標語・作文審査会）、第2回サポートセンター運営委員会、更生保護法人「しらふじ」への物資寄贈

定期総会

統合20周年記念祝賀会

更生保護法人「しらふじ」への物資寄贈

定例研修会（グループ討議）

「社会を明るくする運動」街頭キャンペーン

保護司会だより編集委員会

10月　更生保護制度施行70周年記念全国大会、同中国地方更生保護大会、協力事業主会との合同研修会、島根県東部地区保護司会代表者協議会（出雲開催）
11月　㈱島根富士通工場見学会（研修）、更生保護制度施行70周年記念第24回島根県更生保護大会
12月　「保護司会だより」第32号発行、第3期地域別定例研修会、更生保護功労顕彰祝賀会、第3回サポートセンター運営委員会
1月　出雲地区更生保護関係者協議会、第2回新任保護司地区研修会
2月　第2回地区保護司候補者検討協議会
3月　第2回理事会、第4回サポートセンター運営委員会

# 保護司会網走刑務所視察研修報告

研修部会　角　美幸

映画の影響でしょうが網走と聞くと「番外地」が思い浮かび、旧い「監獄」をイメージしがちです。

実際の所在地は網走市字三眺官有無番地。明るい六月の陽光の下、網走川の河口近くに当の施設は広がっていました。昼食に立ち寄った観光土産物店の二階レストランからよく見えます。一緒になった修学旅行生と思しき一団は、食べることよりスマホ撮影のポーズとりに夢中です。

正門前に横三列で整列し、人数確認を受けた後、保護司会の三島会長以下二十三名（保護司二十名・更女会三名）の参加者は塀の中（「…懲りない面々」という小説がありました）に入りました。担当官からの概要説明、受刑者の居室・作業の様子等の施設見学、売店での物販品購入が視察の流れです。

今回訪問した施設の外に二見ヶ岡農場を有し、面積は新宿区と同じほどもあります。一、六〇〇名の収容定員に対して、現在は七二九名の収容者。その八四％は東京管内からの移送者で、地元は一割ほど。刑期十年未満で犯罪傾向が進んだ日本人男性（松江と同様）で刑期の平均は三年四ケ月。罪名別では覚せい剤五二・九％、窃盗二八・四％、強盗・同致死傷三・三％です。芸能人やスポーツ選手の逮捕、大量の覚せい剤密輸入など事件報道が反映された収容実態でした。平均入所度数四・五回、最高は二十一回で無銭飲食。昨年視察した岡山刑務所では高齢化に対応した対策が講じられていましたが、六五歳以上が五八人平均四七・八歳で、ここでも高齢化傾向が進んでいるとの説明でした。在所中には各種の職業訓練や改善指導に加えて就労支援を行って、出所後の生活基盤を確保し円滑に社会復帰できるような働きかけや支援を行っています。保護司活動でも社会適応という同様な願いをもって努力が続けられていますが、高齢で出所しても自力生活の困難からまた所に舞い戻るという残念な実態が見えます。

二見ヶ岡農場は、いわゆる塀のない刑務所です。先年、近隣の尾道が脱走犯の潜伏地になったことがありました。牧畜や畑作などの農作業に従事するのは適性が認められた者であることは当然ですが、各自が残り刑期も承知しているので馬鹿なことはしないとのことでした。

刑事収容施設及び被収容者等の処置に関する法律の施行もあり、所長の下に地域住民代表など所外の人を含む「網走刑務所視察委員会」が設置されるなどして行刑運営の透明性の確保や処遇の充実改善が図られていました。

売店は塀の外にあり、刑務所前で記念写真を撮る観光客も少なくないとか。イメージチェンジを図る取り組みが成果を上げつつあるようでした。

一方、移築復元や再現建築された旧網走刑務所の建物群は、博物館として網走の主要な観光スポットです。車窓から目にした広大な農地の拡がりや道路網の出発点に、明治維新後の政治課題解決のため、北海道開拓に過酷な労働条件下で囚人の苦役があったことをしっかり学ぶ

網走刑務所の正門にて

ことができました。

三島会長が視察を総括された挨拶の中で、収容者の高齢化と再犯率の高さ、就労支援・福祉の向上と透明性を高める刑務所の取り組みに触れられました。刑務所の実情は、正に今日的社会の問題点を投影していると言えます。

抱いていたイメージとは異なる実際に触れ、周りからの情報や伝聞に惑わされることなく自分の五感で確かめることが大事だと感じた視察研修でした。我々の更生保護活動の重要性を再認識する貴重な研修機会をいただいたことを感謝申し上げます。

説明を受ける研修参加者

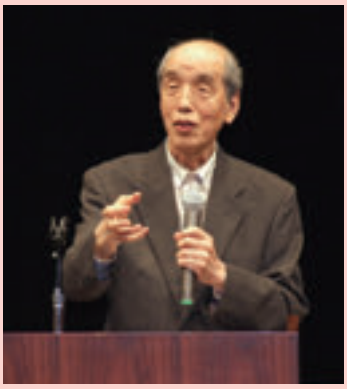
## ～私の「夜間中学」教師体験記～

# 〈命の光を大きく輝かせるために〉を聞いて

副部会長　渡部　舟海（犯罪予防部会）

七月三日、第六十九回「社会を明るくする運動」のメッセージ伝達式の後、啓発講演会がビッグハート出雲において行われました。

講師は元夜間中学校教諭の松崎運之助（まつざきみちのすけ）氏で主として教師の体験記を通じてのお話でありました。講演後、沢山の感動がありましたが、その原点は生まれ育った環境と母親の愛情にあると思いました。そして、教師としての体験を通じて学ぶことの大切さ、本当の真心とは何かに気付くことの重要性を教えていただきました。話の中から二、三例を挙げてみたいと思います。



講演中の松崎運之助氏

その一　「茶髪の少年と七十歳代のおばさんのお話」

授業の休み時間におばさんは、ノートを持って茶髪の少年を追いかけ「教えて」と声をかけるが少年はかかわりたくないから逃げようとする。ノートを見ると花という漢字だ。それからは小学生の漢字を教え学び合う。「本当に頭の良い優しい子だね」とおばさんは少年にお礼を言ってくる。心から出た言葉は人の心をうちますね。理屈を超えて、眼差しだけでも人の心をうつことが出来ます。

その茶髪の少年がある時ため息をついて職員室に入り、私の所にやってきて『おばさんは深々と頭を下げて「教えてくれてありがとう」とお礼を言って帰っていく。俺は次の日が待ちどおしいくらいだ。しかし昨日勉強した事を忘れている。自分の教え方が悪いのではないか？』と悩みを打ち明けた。教員のような顔になって人の悩みを自分の悩みとして悩んでいる。彼はいい勉強をしているなと思った。

勉強とは人が幸せになるためにやる。知識の量をふやし、点数をかせぐだけではない。自分が独占するための幸せではない。幸せは自分ひとりでは幸せになれない。苦しむ人のつらさを軽くしていくのが幸せ。人間が生きていくには智慧が必要。学校で学んだ知識を使って社会に返していくことが大切。知識を付けて心を耕し、感性を高め、周りを励ましていける人になってもらいたい。

その二　「自分の母と子どもの頃」

女手ひとつで日雇いをしながら三人の子どもを育てた母親の話は感動でいつも涙があふれてきた。自分は満州から引き上げる時まだ母親のお腹にいた。子どもの頃の生活はとても貧しい生活だった。差別も受けたが心温まる保母さんに救われた。誕生日になると母親が自分を向かい合わせにして、「お前の命の後ろには、無念で亡くなった人たちの命がつながっている。たくさんの人に支えられていること、たくさんの思いの中で育ってきたことを忘れてはいけない」と話す。

「子どもが親の事を思うとひとき わ眼差しが深くなる」と言うが、子どもと向き合う時間がなくても、少しの時間でも子どもを思う心があれば心を通わせることが出来る。生徒を温かい眼差しで見つめている原点は、自分の母親から生まれたのではないかと思う。

その三「大学の教育実習で教えられたこと」

十八歳の時、働きながら定時制高校に通った。年齢の違い、仕事の違い、それぞれが寄り添うように、支えあって、こぼれるように夢や悩みを語っていく学校に通えて良かったと思った。

教員になるための大学も夜間で、教育実習も夜間中学だった。

そこで、輝くように学んでいた人。学びの中に、自分なりの発見、感動があって目がキラキラと光っていた人。命を削ってまで学びたいという気持を持って学んでいる人もいた。厳しい世の中で生きてきて、人生哲学、人生論を持っている人から学んでいった。学歴の階段を上っていくうちにそういう人達の思いと離れていってしまった。プライドだけを満足している薄っぺらい自分に気が付いた。

体温を感じるほどそばにいながら、悩みやつらさが見えない勉強ってなんだ。「今日かぎりで実習を辞めさせてもらいます。ぼくみたいなふやけた人間が、ここで先生と呼ばれるなんてとんでもない話です。もう一度、自分を鍛え直してきます」と指導の先生に涙ながらに言った。指導の先生も泣きながら「松崎さん、違うんだよ。気が付いただけでも立派なことなんだよ。ここで一緒に勉強していこう」私の両肩をつかみ叫んで説得されました。

実習を終えて、地位とか名誉とか権力とは無縁の人間としての誠実さのある夜間中学で人間としてやり直したい。夜間中学だけを希望して教員になりました。私の志の原点がここにあると結ばれました。

今回の講演は、保護司として対象者と接するうえで大変勉強になりました。特に思いやりを持って真摯に接すること、上目線であったり上下関係はないという同じ目線で接することが大切ではないかと思います。

## 更生保護功労受彰者

（令和元年）

藍綬褒章
岡田　泰明

全国保護司連盟理事長表彰
勝島　徹正

中国地方更生保護委員会委員長表彰
加納　龍雄　岡　賢治
渡部　舟海

中国地方保護司連盟会長表彰
石川　潤子　濱村　芳文

松江保護観察所長表彰
槇野　博巳　加地　崇志
西尾　弘道　糸賀　太道

島根県保護司会連合会会長表彰
堀内　時雄　勝部　篤
藤原恵美子　水　教一
井上　安弘　岩佐　昌昭
岡田　隆　嘉本　秀男

## 保護司の異動

◎新任
山岡　尚（出雲）
吾郷　宏光（平田）
津戸　弘光（大社）
（令和元年十二月一日付）

## 編集後記

第三二号には「社会を明るくする運動」の標語・作文コンテスト入選作を掲載しました。

水さんの作文は、社会を明るくしていくうえで、最近重要視されている「再犯防止」の課題に、小学生でありながら、正面から深く考えていることに感心しました。

中学生の津田さんの作文は、人を常識や先入観で見ないで、もう一歩相手を理解しようとする心が大切なことに気づかせてくれました。

私の所属する斐川支部では、毎年町内の中学生と対話する活動をしています。今頃の中学生の関心は、ファッションやSNSだろうかと思って参加しましたが、意外にも「罪を犯した人」が再び社会に受け入れられることについて考える生徒がいました。また、若者の投票率の低さに関心を寄せる生徒もいました。社会や政治についての疑問や考えを語る生徒がいることに驚きました。

作文や対談を通じ感じたことですが、自分のことだけでなく、社会の課題についても考えるその姿勢が、頼もしく思え、未来への希望を感じました。

（三島健二）

※この広報紙は、更生保護法人島根保護観察協会からの助成金を財源として発行しています。

出雲地区保護司会だより 第三十二号　令和元年十二月一日発行　出雲地区保護司会　事務所：出雲市今市町五四三番地　電話22－7190